

23rd 全国曹洞宗青年会

sousei

192
2021.2

特集①

仏師、鬼師、人々の願い

特集② 心に寄り添う僧侶の在り方 第2回



・「明日をひらく寺院創生講座」開催報告

・連載「過疎」と向き合う

第6回 「お寺の未来」代表 井出悦郎氏寄稿

・大本山總持寺開創700年 全曹青奉讃事業予告

「今を創ろう 明日を咲かそう」復興と700年の思いを込めて」

仏師、鬼師

人々の願い

受け継がれる思い 仏師篇

今からおおよそ1500年前、百済の聖明王が欽明天皇に金銅佛ならびに經典を送ったという記録が残っておりま

す。また、聖徳太子は十七条の憲法において「篤く三宝を敬え」と仏教を推奨しました。それ以来、現在に至るまで人々の苦悩を受け止めてきました。おりしも新型コロナウイルスが日本に



到来してからはや一年。今も昔も変わらない人々の願いがこめられた仏像についてお話を伺うため、そのつくり手である宮本工藝の仏師・宮本我休みやもとがきゅうを訪ねました。

(以下、宮本氏の発言)

仏像との出会い

私は最初から仏師を目指していたわけではありません。もともとは服飾系の大学でファッションデザイナーを目指して学んでいました。在学中には洋服のイラストレーションの仕事させてもらう事もありました。その当時は特別に仏像に興味があったわけではなく、寺社仏閣を見学する機会があったとしても主に天井画や襖絵などを中心に参考にしていました。

仏像に興味を持つようになったきっかけは兄の紹介で、十一面観音像の彩色を手伝わせていただいた時でした。

そこで感じたのは時間軸のスケールの大きさでした。私のいた服飾業界はサイクルがとても早く、今年作った服が流行っても来年には淘汰されてゆき、また新しい流行が生み出されます。それに対して仏像というものは、もちろん流行り廃りが全く無いわけではないですが数百年、場合によっては数千年、時代を貫いて残っていくものも数多くあります。当時の私は、そこに大きな衝撃を受け、いつしか、そのような仕事に携わりたいと思うようになりました。

はじめこそ、彩色の仕事をきっかけに絵師として働いておりましたが、当然近くで仏像を彫っている職人さんの



京仏師 宮本我休みやもとがきゅう

京都生まれ。

学生時代に服飾を学び、卒業後京都の仏像彫刻工房にて仏像の彩色を手掛けたことをきっかけに仏像彫刻の世界に入る。

9年間の修行の後、平成27年4月独立。京都・西山に工房を構え「宮本工藝」を設立し、日々仏像・仏具、その他木彫刻全般の研究、制作に励む。学んだ服飾技術を活かし、リアリティのある衣文表現を得意とする。

姿も目に入ります。毎日見ていると当然自分でもやってみたいくなりますよね。そこで当時の師匠にお願いして仏像彫刻の手ほどきを受けました。それが私の仏師として最初の一步となりそれから、仏像彫刻の世界にのめりこんでゆきました。

仏師の起源

仏師の起源については諸説ありますが、古くは日本書紀などにみられます。飛鳥時代、奈良時代初期には朝鮮半島を経由してやってきた渡来人が日本に

移り住み技術を伝えながら仏像を作っていました。おそらくわが国における初期の仏師はそのような方々なのではないでしょうか。奈良時代の後期からは徐々に日本独自の仏像が作られるようになりました。平安時代には遣唐使の廃止などもあり国風文化が大きく花開き、藤原道長、頼通父子に重用された仏師定朝じょうちゆうがあらわれ日本の仏像の制作技法を体系化し、それは和様わやうと呼ばれ後世の模範となりました。宇治平等院鳳凰堂の本尊阿弥陀如来坐像は、定朝の作として現存する唯一確実な像とされており、平安の貴族との趣向とも合致し

「尊容満月の如し」「仏の本様」と讃えられました。

鎌倉時代になると武士が台頭し、浄土宗、浄土真宗、時宗、日蓮宗、臨済宗、曹洞宗など多くの新しい宗派が生まれ仏教界も大きく盛り上がり、様々な寺院が建立され仏像も多数作られました。定朝の流れを汲み発展させた運慶・快慶らがでたのもその頃になります。仏像の様相も、大陸文化の影響が強かった飛鳥・奈良時代から平安・鎌倉時代へと時代の変遷に併せて変化してゆきます。そのあたりにも注目して鑑賞してみるととても面白いと思います。



©平等院

定朝 作 平等院阿弥陀如来坐像



快慶 作 醍醐寺弥勒菩薩坐像





理想の仏師

私の理想とする仏師は快慶です。無条件に人を魅了する圧倒的な存在感、それに魅せられて、その真髄に触れるべく研究を重ねました。書物や画集を読み漁り、鍛錬を続けた先にはこのレベルに到達できると当時の私は考えていました。しかし、快慶作の中でもとりわけ私が興味を持つ仏像、醍醐寺弥勒菩薩坐像を間近で見たとときの衝撃は、はかりしれないものでした。言葉で表現することは難しいですが到底この域に達することはできないと打ちのめされ、時が経つのも忘れてそこに茫然と立ち尽くしてしまいました。それからしばらくは仏像をつくる気力すら奪われてしまいました。見た目の模倣や計算だけではたどりつけない領域というのが確かにそこに存在したのです。

それからの私は、自分にしか作れないもの、私の個性とは何かと考えるようになりました。一番の特徴として挙げられるのは、服飾関係の経験を生かした衣紋えもんの表現ではないでしょうか。ミケランジェロなどの西洋彫刻からも

インスピレーションを得て、他のフィールドからでも良いところは取り入れていこうと思っています。令和の時代に生きながら、伝統的な定朝にはじまる和様の形、憧れて研究に明け暮れた快慶の仏像などを踏まえ、服飾の経験を生かした衣紋表現などをうまく組み合わせ、時代を越えて愛されるような仏像を作ってみたいものです。



本棚にならぶ研究資料



宮本我休 作 十一面観音像



ミケランジェロ 作 ピエタ像



宮本我休 作 韋駄天像



宮本我休 作 烏枢沙摩明王像

仏性は常住にして
遍からずといふことなし
機に臨み変に応じて
仏となり鬼となる

出典：早川鐵翁著 引華法語抄 第二十一卷 涼風一夢章より一部抜粋

写真：美濃邊鬼瓦工房の鬼瓦

受け継がれる思い 鬼師篇

皆さんは鬼師という言葉を知っていますか？ 寺社仏閣などの屋根瓦のなかには特別な意匠をこらした鬼瓦というものがあります。その鬼瓦に心血を注いで作りあげる職人さんのことを鬼師と呼びます。今回はその鬼師の一人である美濃邊哲郎さんにお話をうかがうため風光明媚な琵琶湖の畔に位置する美濃邊鬼瓦工房を訪れました。

(以下、美濃邊氏の発言)

鬼瓦とは

鬼瓦を理解するためにはまずは建物における鬼瓦の役割を知っておく必要があるでしょう。鬼瓦に注目してみると屋根の端々に置かれていることに気づくと思います。建物の屋根の構造上一番端にあたる部分は風雨にさらされた時に雨水が入り込みやすく、特に弱点になりやすい部分になります。そこから木の腐食が始まったり、虫がついたりしてゆきます。そして、そこを起



株式会社美濃邊鬼瓦工房

代表取締役 美濃邊哲郎

昭和55年2月2日生まれ(40歳)

20歳から観賞魚店の店員を経て瓦工房に入社。全国の社寺仏閣、文化財等の鬼瓦を製作。近年は装飾品、店舗オブジェ、公共機関のモニュメントの製作も手がける。

製作実績

總持寺(紫雲臺)、清水寺、知恩院、東寺、西本願寺、平等院、京都御所など



美濃邊鬼瓦工房制作
本能寺の鬼瓦

点として建物全体を蝕んでゆきます。昔の人たちはそれを邪気や魔と捉え忌み嫌い、鬼瓦と呼ばれる通常とは違う特殊な瓦で覆うことによって補強し、同時に建物の安全を祈願しました。

鬼瓦の起源

この鬼瓦のように、人や獣の顔といったものを飾り、魔除けや願掛けのよくなことをする文化というのは古くは古代ギリシャのメデューサに見られます。アポロ神殿の入り口上部に設置されていたメデューサ彫刻は、見たもの

を石に変えてしまうという伝説から神殿の守り神として、外からの邪気を払う役目を担っていたと言われています。このような文化はシルクロードをつたう中国大陸、朝鮮半島を経由し、その過程で様々な文化と交わりながら日本にはいつてきました。

鬼瓦の種類

一番分かりやすいのは鬼面きめんと呼ばれる種類です。鬼瓦といって真っ先に思い浮かぶのはこの形だと思えます。鬼の顔は実に様々です。寺社仏閣を訪れ

た際には屋根を見上げて観察してみると面白いと思います。

他には、鴟尾しびと呼ばれるものがあります。これに似たものは古代ギリシャにも見られ、羽のような形をしています。主に中国の建物に多く見られ魚の尻尾のような形をしています。鬼面よりも歴史は古く唐招提寺の鴟尾は日本最古で鯪しやちほの原型だといわれています。大きな屋根になると平行であっても端のほうは少し下がって見えてしまいうす。設計の上で少し反り気味にしたりという工夫と併せて、屋根の端に鴟尾を置くことによって勢いがでてきます。

建物の勢いや迫力といったものは威厳を示すためにもとても重要な要素だと思えます。また、なんといっても建物において一番恐れなくてはいけないのは火事による焼失です。鯪や龍などを飾ることによって水を呼び、火伏せの効果も期待していました。

もう一つ代表的なものを挙げるとすれば獅子口ししぐちというものがあります。上部は経きょうの巻まきと呼ばれ、その下には家紋や寺紋などが入ります。一番下の部分は足元と呼ばれ雲や波があしらわれています。

その他にも多くの種類の鬼瓦が存在



アポロ神殿のメデューサ



パルミラ遺跡のライオン



唐招提寺の鴟尾

し、それぞれに様々な思いが込められています。機能性のみならず、込められた思いが鬼瓦をよりいっそう魅力的な存在たらしめているのではないでしようか。

鬼瓦を通して感じるもの

現在は日本の家屋に鬼瓦をのせるといふ仕事は減少傾向にあり、寺社仏閣などの文化財の修復の仕事が増加しています。しっかりと、焼き固められた鬼瓦は数百年以上もつこともあります。今ほどの道具や設備もなく、数百キロ

の鬼瓦を屋根に上げることは並大抵のことではないし、命懸けの作業だったに違いありません。人生50年といわれていた時代に私よりも若いかもしれない職人さんたちが命を削って作りあげた鬼瓦に対峙したとき、鬼が云うと書いて魂とでも言うのでしょうか、先人の息遣いや人となりが時を越えて伝わってきて、その気迫に吞まれてしまっています。その方々の積み重ねてきた経験の下に私たち鬼師がいるということ、それを肝に銘じて妥協せずに向き合っ

てゆきたいです。自分の携わった鬼瓦が寺社仏閣にの

こるといふことは職人冥利に尽きます。何百年も残っていくものですから。うちの場合は鬼瓦を形作る土から、焼き・いぶしの作業まで伝統的な製法を守りながら心を込めて手作業で行っております。多くの人たちが参詣する寺院や神社、また他の多くの文化財の一部である鬼瓦をその場に相応しく作り上げることはもちろんのこと、後から僕ら作った瓦を修復する未来の鬼師の為に恥ずかしくない仕事をしてゆきたいものです。



美濃邊鬼瓦工房制作 鬼面



美濃邊鬼瓦工房制作 鯨



美濃邊鬼瓦工房制作 建仁寺 三門「望闕楼」の獅子口



まとめ

初春の令月にして氣淑く風和らぎ

梅は鏡前の粉を披き 蘭は珮後の香を薫らす（万葉集）

令和の時代が幕を開けました。2020年には東京オリンピックの開催も控えており、それに向けて東京を中心に新しい開発が進んでいました。万葉集に収められ、令和の元号の元になったこの歌の如く、新しき良き時代の到来に誰しもが期待を抱いていました。そのような中、突如として発生した原因不明の肺炎をもたらす新型のウイルスにより人々の生活は激変してしまつたのです。そのウイルスが日本に蔓延し始めてからはや一年が経とうとしており、世界各国が総力を挙げてワクチン開発を進めていますが、いまだ収束の兆しは見えません。

日本は古来より疫病や自然災害に苦しめられてきました。今より約1300年前の奈良時代には、天然痘が大流行し、国民の3割程度が命を落とすと言われています。また、地震や飢饉なども相次いで起こり日本中が疲弊していました。当時は疫病や災害などの異変は為政者の資質によるものという風潮があつた為、時の聖武天皇は度重なる遷都、また、東大寺の盧舎那仏の造営、全国に国分寺・国分尼寺を建立するなど仏教の力を借りて国家の安泰を願いました。その時の記録が残る「続日本紀」には「責めはわれ一人にあり」と当時の聖武天皇の苦悩が綴られています。人の力ではどうすることもできない現状に直面し、地位も名誉も役に立たない状況に追い込まれたとき、神や仏といったものに願いを託すほか無かつたのではないのでしょうか。

今回取り上げた、仏像や鬼瓦といったものも、正にそのような人々の願いが結実したもの的一端といつても過言ではないでしょう。それらは決して遠い過去の遺産ではなく、人の一生よりも遙かに長い時を経て現在に至るまでずっと私たちを見守り続けてきたのです。それらを通して、数々の苦難を乗り越えて伝えてきた先人達の心に思いを馳せ、その心を胸にこの国難を乗り越え、令和という素晴らしい時代を歩んでゆきたいものです。

特集担当／広報委員 秋元憲裕

深堀泰寛



特集② 第二回

心に寄り添う僧侶の在り方

吉村 昇洋師 プロフィール

曹洞宗八屋山普門寺副住職。公認心理師／臨床心理士。相愛大学 非常勤講師。

1977年3月、広島県生まれ。仏教学修士を取得後、永平寺に安居。乞暇後、臨床心理学を学び、現在は心理臨床家として広島県内の精神病院に勤務。その傍ら、著書『気にしない生き方』をベースに、全国各地で、禅の智慧を交えた心身の健康に関する講演も行う。メディアでは、NHK総合『助けて！さわめびと』の〈不眠症対策〉の回に講師として抜擢され、大きな反響を呼んだ。近著に『精進料理考』（春秋社）。



全2回の連載特集の後編となる今号では、前回に引き続き心理臨床家としても活躍される吉村師にお話を伺いました。新型コロナウイルスの影響もあり、悩める人の心に寄り添うということがさらに注目されることとなった昨今、その具体的な実践について伺います。

―ここまで禅と臨床心理学の親和性について、またその両方を併用する意味について伺ってきました。では私たち僧侶にできることはなんでしょうか

吉村師 僧侶は長年に渡って、何かを語ることが求められてきた存在です。しかし昨今の社会では語るだけでなく、受け止める仏教を求める風潮も高まっています。先ずそれを肝に銘じておかなければいけません。

私達がお会いする多くの方々は、それぞれが別の思いや気持ちを持っておられます。それを上手に傾聴し、正しく受け止める。同じ目線で自分も考え、その上でどのように接することがその人のためになるのかを見出し、そこから語ることが必要となります。そう考えた時に、相手が理解しやすい手段を用いることも大切ですよ。語るにしても、いきなり仏法の言葉で導けるケースなのか、それとも話を聴き続けて思いを吐露させた方が、ひとまず良いケースなのか。『語る前段階』にしないとけない判断が、色々あると思います。

僧侶としての傾聴

―現場に立つと、たしかに聴くことの重要性を感じます。では『聴く』ことについてどう学ぶべきでしょうか

吉村師 この仏教における『聴く』は何も現代に新しく生まれた考え方ではありません。曹洞宗でも四摂法が説かれますが、「同事（協力。同じ働きをと

もにする）」の実践には、まず相手の思いを聴くことが不可欠です。さらにもっと原点に立ち返るのであれば、お釈迦様は対機説法を旨としていました。古くから、先ずしっかりと相手の心に寄り添い、気持ちを理解することからスタートしたわけですよ。

また『禅』に焦点を合わせるのであれば、禅問答からも非常に多くの学びがあります。師匠から弟子に問いが寄せられる場合、弟子は言葉の意味内容（論理性）よりも、それを発した師の意図をつかまねばなりません。南泉門下の趙州のように、一発で意図を理解する者もいれば、片や、問答やその後の修行が進んでいく中で、正しく汲み取られていく場合もあります。

重要なのは、上辺の言葉にとらわれるのではなく、相手の意図や気持ちなどの、少し深いところに隠れているものに焦点を当てて、受け止めることができるかどうかです。

だからこそ、私達にとって傾聴の力はとても大切な技術です。会話のキャッチボールという表現もありますが、自分の思いをボールに乗せて投げるだけでは、キャッチボールにはなりません。投げるばかりではなく、投げてもらった球を受け取ることを忘れてはならないのです。

受け手の姿勢

— 具体的にはどういった実践方法がありますか

吉村師 カウンセリングの姿勢として言われることですが「自分は相手の姿を写す鏡である」という考え方があります。相談者は会話の中で、私達受け手に自分自身の姿を写しながら、自問自答していくという考え方です。そういった鏡としての役割に自分を置く。そんなキヤッチボールもあります。

分かりやすい例では、相手の言ったことをそのまま復唱する「オウム返し」という技術でしょうか。言葉には、気持ちの伴わないまま発される部分が少なからずあります。だからこそ、鏡の方から同じ言葉を返される事で、その言葉を発するに至った自己の内面について自問自答が始まるのです。

他にも、要約という技術もあります。長い時間をかけて話して下さったことをオウム返することはできませんから、それはこちらで整理して、「つまり、○○ということですか?」とか、「○○という気持ちもある一方、△△という気持ちもある?」といった形で、内容を確認するように返す。これによって相談者にとっては、まとまっていなかった自己の理解へと至ります。またこれは、しっかりと話を聞いてくれて

いるという実感を持っていただくことにもつながりますね。

言葉という媒介を用いると、どうしても言語としての意味に注目しがちです。しかし、何度も言いますが、その言葉が発されるに至った気持ちの部分を理解するのが「聴く」ということだと思います。

もしもあなたが「嫌いだ」と言われたとして、その背景にある相手の気持ちはなんでしょうか。単に嫌いだと伝えたかったのかもしれないし、もしかしたら好いてほしいからこそ言っているかもしれない。他にも色々な可能性がありますね。相手の表現に動揺せず、言葉の背景、すなわち意図を理解することが大切になってくるわけです。

例えばお釈迦様の逸話の一つに、キサーゴータミーの「白カラシの種の話」があります。この中で、亡くなった子どもを生き返らせたキサーゴータミーに対して、お釈迦様は、人が亡くなったことがない家から白カラシの種を貰ってくるよう勧めます。しかし当然そんな家はありません。そこでキサーゴータミーは、誰しも必ず生ずれば死を迎えるという諸行無常を受け入れたという逸話ですね。この逸話でのお釈迦様は、相手の気持ちを理解した上で、自分自身で気づくことができるように導いておられます。凄いことですよ。



— たしかにその時のキサーゴータミーの心情を考えると、ただ「人は死ぬ」と言葉で説くのは、相手を突き放しているのと同じかもしれません。自分で気が納得することがいかに重要か分かります。

吉村師 僧侶は他者の死というものに慣れすぎています。ご遺族にとっては一度しか訪れない、かけがえのない人の死。それが沢山の死のうちの一つではないということをやっぱり、忘れてはいけません。

心理臨床分野の師匠から教わったこ

とで、今も私の心に残っている言葉があります。それは「人はモチベーションが高ければ自力で問題を解決することができる。しかしそれができないくらい心身が疲弊しているから、どうにも動けなくなる」という言葉です。

一般的に僧侶のイメージというと、問いに対して即座に核心を突く答えを出すようなイメージがあるかと思いますが。これは過去の祖師方が積み重ねて下さった研鑽が、仏典を通して私達の知識となっているからこそできることです。沢山の祖師方の言葉に、多くの問題への答えが示されています。しかしここで考えてみて下さい。その答えをそのまま相談者に伝えることが、絶対的な正解でしょうか。そうではありませんよね。なぜならそれは祖師方の答えであって、対面するその方が出した答えではないからです。自分の答えではないものを、これが正解だと一方的に与えられても、心が元気になることはありません。自分で答えを見つけていくことによって、心は力を取り戻していくのです。

だから私達僧侶の役目は、ただ正解を提示するばかりであってはいけません。お釈迦様が白カラシの種を探しに行くよう勧めたように、その人が自分で正解を出せるように寄り添うことこそ、私達僧侶の役目だと思います。



寄り添うとは

「具体的にどういった実践方法がありますか」

吉村師 例えばこちらから語りかける場合にも「どのようにお考えですか？」と、相手に考えてもらうように促すことが大切です。また、「いつ」「どこで」「誰が」「どのように」と、返答が心の整理につながるような質問を選ぶことも必要ですね。

そして他にも私が大切にしていることに、相手の気持ちを認めるということがあります。どんなお気持ちも、どんな感情も「それで大丈夫だよ」と認めることを心掛けています。

例えば死に接する時には、当然ですが様々な気持ちが生まれます。悲しい気持ちだけでなく、時には怒りや喜びも生まれるかもしれません。誰にとっても未知のものである「死」に接して、そこに様々な感情が生まれるのは当たり前のことです。だから先ずは、どんな感情もそれに良いも悪いもないとお伝えしています。先ず自分の心の現状を受け入れなければ、どう変化するにしろ、糸口は見えてきません。

「聴くことを大切にしていくことで、自ずと何を語るかが決まってくるわけですね。」

吉村師 その通りです。ただしこの語るということについて、誤った使い方にならないよう留意しておかなければなりません。今回のコロナウイルスによる影響のように社会に混乱が生まれている場合、特に多くの方が心を疲弊させています。そんな今だからこそ、語ることがある種の盲信を持って伝わる場合もあります。僧侶は一般の方にとっては特殊な存在です。その特殊性もあって、盲信の対象になりやすい存在と言えるでしょう。不用意に語った言葉から、この人の言葉ならどんなことも間違いないなんて、そんな誤った依存を生むことがあってはいけません。

辛い時ほど人は、強いカリスマ性に引き付けられます。丁寧に傾聴した上で語られる言葉は、疲弊した心を利するものとなるでしょう。しかし最終的には、自分の内にある力によって、疲弊した心は元氣を取り戻していくのです。その大前提を忘れてしまえば、依存対象がいなければ何もできない人になってしまいます。重要なのは、外と内のバランスです。外側と内

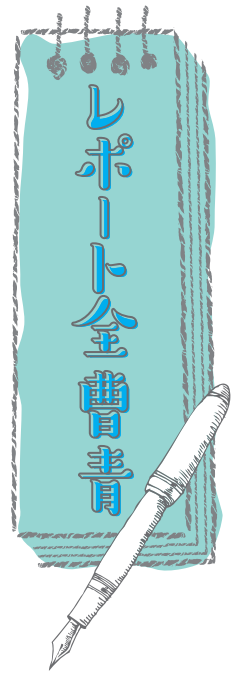
側、つまり環境と自己という2つの相互作用で人は生きています。そのように、マクロとミクロ、どちらの視点からも全体を見ることができるよう促すことが必要です。

「最後に、傾聴に、聴く側の人間性は関わってきますか？」

吉村師 プロの心理臨床家は、決められた倫理的な枠組の中で技術を行使するだけの存在ですので、人間性は問われません。ただ、口でなしよりちゃんとした人に話を聴いてもらいたいと相談者が思うのは当たり前のことですので、その判断材料となる聞き手の態度（自己一致…相談者に対して自己の感じられ方や言動が一致していること）は非常に重要です。

といつても、我々は禅僧ですので、道元禅師が清規で示されるように、自己存在以外に対する敬意を常に持ち続けるのは基本ですよ。ですからそこは、人間性と言うより、衆生と共に歩まんとする菩薩行の実践と言った方が、我々にはしっくりくるような気がします。

取材／広報副委員長 菅 悠生
撮影／広報委員 米澤 高志



令和2年度臨時評議員会・臨時総会

令和2年11月20日、オンラインで臨時評議員会・臨時総会が開催されました。5月の定期評議員会・定期総会についてはコロナウイルス感染拡大の影響で書面決議となったため、およそ1年ぶりの評議員会・総会となります。

令和2年度の全曹青活動の中間報告がそれぞれの委員会・事務局から報告され、また会則の改定と来期（第24期）の副会長承認決議が行われました。

この1年の間に、様々な状況が変わりましたが、翌年に予定しているものも含めて見直しをせざるを得なくなり、現在予定している活動はほとんどがオンラインを介しての取り組みです。

副会長承認については、岡島典文師（愛知第一）、森井宗淳師（いずも）、田ノ口太悟師（福岡）の承認議案が了承され、既に承認を受けている山田俊哉（秋田）来期会長と共に来期に当たっての抱負を述べました。

文／広報委員長 田ノ口太悟



倍侶による災害復興支援とSDGs



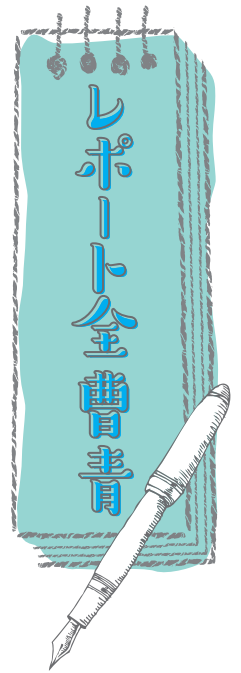
全曹青ではSDGsへの取り組みも行っております。SDGsは「誰一人取り残さない持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現」を目的に、17の大きな目標と169の具体的なターゲットを定めた、国連サミットで採択された国際目標です。

私は災害復興支援部としての私たちの活動がこの目標を目指すというよりも、活動が結果的にはこの目標に当てはまってくれたらいいなと思いつつ支援活動を行っておりました。しかし、この状況が少し変わったのがコロナ禍での活動でした。ウイルスの影響は支援活動に大きな打撃を与え、今まで行っていた活動ができなくなる場合があります。この現状で何ができるのか模索する中でSDGsの目標をヒントに活動方法を考えていきました。

「誰一人取り残さない」というのは元から災害現場において大切にされていることです。避難所での生活や復興現場での活動、そして被災された方々だけでなく復興支援に携わっている皆さんに対してもです。

災害に対しても日ごろから地域と接している倍侶だからできること、全国各地にいる倍侶だからこそ連携してできるSDGsの活動があると思います。

文／災害復興支援部事務局長 原田恵一



「明日をひらく寺院創生講座」開催報告

第23期全国曹洞宗青年会では、新たな取り組みとして、現代社会が抱える社会問題の一つである「過疎問題」について、当広報誌上での連載記事の作成や、島根県でのフィールドワークなどを通じて過疎問題に関する学びを深めてきました。今年度に入ってから、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、オンライン講座という今までにない形式での大規模な研修会の企画運営を行い、最終回では、有志による寺業計画書の発表が行われ、多くの学びを具体的な目標へと昇華することができました。研修会の参加者は最大100人以上に及び、全5回6日間で延べ約300人が参加されました。

今回はこの場をお借りして、研修会の開催報告と、参加者からの感想をお伝えします。

○開催概要

- 第1回 「寺院を取り巻く世界と日本の今を知る」(6月25日)
- 第2回 「お寺の可能性を開くマーケティングを学ぶ」(7月29日)
- 第3回 「お寺の強みとビジョンを探求する」(9月1日)
- 第4回 「お寺の持続的財務と組織・会員制度を考える」(10月5日)
- 第5回 「世界に一つの寺業計画を発表する」(11月26日、27日)

参加申し込み者の所属宗派	
曹洞宗	103名
浄土宗	9名
浄土真宗	9名
日蓮宗	6名
真言宗	2名
臨済宗	1名
念佛宗	1名
黄檗宗	1名
和宗	1名
その他	3名
合計	136名
参加者の年代	
20代	1名
30代	29名
40代	32名
50代	3名
60代	1名
無記名	70名

参加者の声

石見曹洞宗青年会 岩瀧寺副住職 井田昭彦

島根県江津市の過疎地域のお寺で、檀家数も少なく、兼業で青少年教育施設で勤務しており、その経験を生かして、子育て世代対象のお寺イベントを開催しています。今年はクラウドファンディングで「岩瀧寺ピザ小屋」を建てました。

このたびの研修会で「不易流行」の大切さを改めて再確認しました。大切な仏教の変わらぬ教えを伝え続けるために、伝える我々僧侶の伝え方（アプローチ方法）は変わり続けなければならないということです。

発表者の方、それぞれが様々な取り組みをなされていて、とても刺激を受けました。

自身も発表する側に立たせていただき、寺業計画を振り返ることができたことも大きな価値となりました。

過疎地での寺院運営は厳しく、近隣の寺院も兼業の方ばかりです。でも兼業だからこそ伝えられる教えもある。今の時代の仏教の伝え方の一つの形なんだ。そう信じて、今後も精進してまいります。

講師の井田先生をはじめ、全曹青運営の皆様、今回ご縁をいただいた全国各地でがんばっておられる法友の皆様、たくさんのご縁に感謝申し上げます。本当に貴重なご縁がありありがとうございました。



ピザ窯作り



ピザ小屋完成パーティー
写真中央が井田師

映画事業実行委員会からのごあいさつ

全曹青 Real Voice



委員長 河口智賢

曹洞宗山梨県青年会より参加しております。
2020年は時代が大きく変わりました。しかし、どんなに変わっても私たちが縁起によって生かされていることは変わりません。変わらないために変わり続けることを、映画『典座—TENZO—』の中から感じていただければ幸いです。今後も上映活動に精進いたします。



副委員長 近藤真弘

新潟県曹洞宗青年会より参加しております、近藤真弘です。

多くの人たちの想い、多くの方々のご協力により完成した映画『典座—TENZO—』！！さらに多くの方々にご覧いただければ幸いです。見れば見るほど新たな発見もあります。まだご覧になってない方は是非ご覧ください。



委員 井口昭典

曹洞宗岐阜県青年会より参加させていただいております。

映画『典座—TENZO—』をご視聴いただきましたでしょうか。多くの方々がこの映画を通じて、禅に興味をもっていただけるように努めさせていただきます。禅は世界へ広まっております。まだまだ、マスクと手洗いうがいをお忘れなくお願いいたします。



委員 平野衣純

曹洞宗山梨県青年会から参加させていただいております平野衣純です。

新型コロナウイルスの影響で映画館等での公開がありませんが、多くの方々『典座—TENZO—』の映画を知っていただき、それを通して禅に興味を持ていただければ幸いです。初めての参加で不慣れではございますが、よろしく願いいたします。



委員 坪内大紀

三重県曹洞宗青年会から参加させていただいております。

映画事業実行委員として色々な経験をさせていただいております。

一人でも多くの皆様に映画『典座—TENZO—』をご覧いただけるよう引き続き努めてまいります。何卒よろしくお願いたします。

「過疎」と向き合う

多角的に「過疎」を見る

日本社会が激動する中、今後の方向性を悩まれているお寺は少なくありません。一般社団法人お寺の未来は、寺院のお悩みに傾聴し、持続性を高める経営支援を行なっています。課題の明確化や客観的助言に加え、実行面で寺院に伴走する支援スタイルを大切にしています。

また、寺院とご縁を求める生活者に、檀信徒や地域のために真摯な運営を行って寺院を広くご紹介する「まいてら」というWEBサイトも運営しています。当サイトを通じ、生活者と寺院のご縁が多数生まれています。



お寺の未来
ホームページ
<https://oteranomirai.or.jp/anshin>



まいてら
お寺紹介ポータルサイト
<https://mytera.jp/>




【井出悦郎 プロフィール】

「一般社団法人お寺の未来」代表理事

東京大学文学部卒。人間形成に資する思想・哲学に関心があり、大学では中国哲学を専攻。銀行、経営コンサルティング等を経て、「これからの人間教育のヒント」と直感した仏教との出会いを機縁に、「(一社)お寺の未来」を創業

この度、基幹事業としております「過疎問題への取り組み」として、全5回のオンライン研修会を開講いたしました。過疎問題への取り組みには多角的な視点が必要不可欠です。講師には仏教界のみならず各業界への造詣も深い井出悦郎氏をお招きし、寺院という存在のパートナーとして、今までにない新たな視点から多くのご提言をいただきました。今号ではオンライン研修会の土台となったデータを紹介しつつ、改めて過疎問題の本質を考える機会としてご寄稿いただきました。

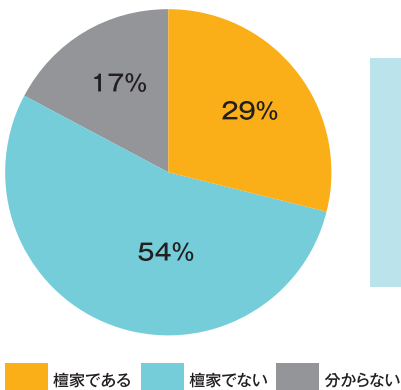
現在の日本社会は大転換期に突入しています。その中で、寺檀関係は大きく変容しています。いくつかのデータを基に、寺檀関係の変化を考察します。

檀家意識を持つ人は少数派

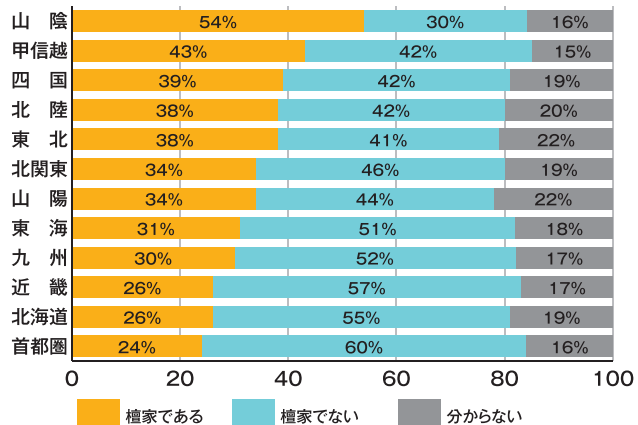
2016年に全国1万人の生活者を対象に行った「寺院・僧侶に関する意識調査」では、檀家意識を持つ人は全国で29%でした。寺院側が檀家と違っていても、生活者側は檀家と思っていないという乖離は今後拡大していくでしょう。

問：あなたは、特定のお寺の檀家ですか？

檀家という意識



地域別

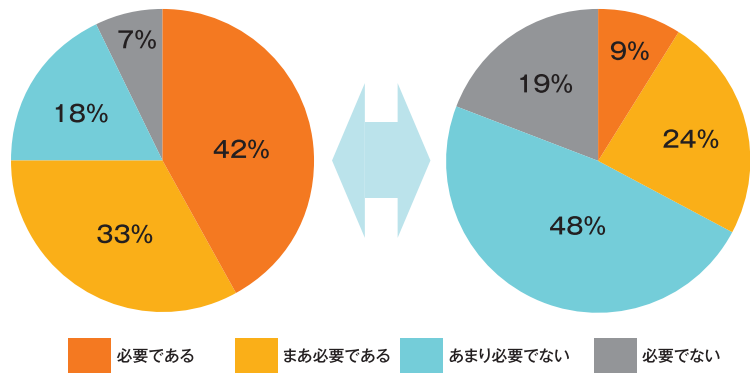


(出典) 寺院・僧侶に関する生活者の意識調査(一般社団法人お寺の未来:2016年12月実施)

葬儀に寺院・僧侶は不要と考える人が多数

葬儀における宗教性の必要性

葬儀の必要性



出典：(一社)お寺の未来総合研究所「葬儀・お墓に関する生活者の意識調査」(2018年9月実施)

葬儀は必要だが宗教性は不要と考える人が多数派です。本音では葬儀にお坊さんは不要だと考える人が多いことを示唆します。

そして、平均寿命と健康寿命との差(2016年)は男性8・84年、女性12・35年と年々拡大。介護施設や病院に入る期間が長期化し、寺檀関係は希薄化します。この間にご縁を維持できなければ、寺院に葬儀を依頼する

檀信徒は減少します。今後は、檀信徒の看取りや人生会議(ACP)に寺院が積極的に関わり、地域包括ケアシステムの一員として、医療者や介護者が担えない死に臨む心のケアが求められるでしょう。

お墓の形は多様化し、家族最適から個人最適へ

生活者調査に抛れば、先祖・家族と同じお墓や納骨堂を選ぶ人が約半数ですが、女性は樹木葬や散骨など埋葬形態の自由化を志向し、自分に合ったお墓を選び、「イエ」のお墓を離れようとする傾向が見えます。今後は世代を超えた「家族最適」から、各世代が自分にあつたお墓を選択する「個人最適」へ移行。お墓の形に「定番」がなくなり、お墓の形は一層多様化します。

生前にお寺と触れるきっかけを提供することが重要

6割強の生活者は寺院の催しへの参加意向があります(生活者調査)。坐禅・写経・法話・精進料理等、曹洞宗の特色を活かすことができ、寺院規模に関わらない取り組みが上位に並びます。お寺に触れるきっかけを生活者に提

供することはますます重要になります。催しへの参加と、檀信徒になることは直接的に結びつきにくいものの、「お寺らしいことに取りくんでいる」という点が、生活者がお寺とのご縁を決める際の補助材料になることは、お寺の未来の経験値として言えることです。

寺院のあり方に一律解はない。個別解を追求し、実践する寺院に未来が開かれる

2020年6月に開始した全国曹洞宗青年会主催「明日をひらく寺院創生講座(全5回)」は、前述の寺檀関係の変化を背景とし、各寺院の寺業計画の具体化に挑戦しました。

最終回では12ヶ寺が発表。終活、宿坊、体験型、寺子屋、苔寺等、各寺院の置かれた環境や独自性・魅力等、寺院の「個性」を適切にふまえた素晴らしい内容が披露されました。大多数の寺院が過疎立地でしたが、「個別解」を追求する寺院に未来が開かれる大きな可能性も本研修会を通じて明らかになりました。

「お寺の未来」が寺院を支援する際、「寺院毎の個別解の追求」を大切にしていきます。過疎地でも非過疎地でも、どの寺院にも通用しうる魔法のような一

律の解はありません。立地地域の環境、寺檀関係、住職・家族の思い・能力等、各寺院の特殊事情を十分にふまえた個別解を泥臭く追求することが最上の解決策です。

本論をまとめますと、今後の寺院に必要なポイントは次のようになります。

- 生前から檀信徒と関わり、看取りに積極的に取り組む
- 仏事以外で寺院や仏教に触れる機会を提供する
- 社会環境と寺院の独自性をふまえ、個別解を追求する

世の中のあらゆる事実・事象は中立的に起き、それ自体に意味はありません。事実・事象を眺める角度によって意味が紡がれ、機会(チャンス)にも脅威(ピンチ)にもなります。社会変化にとことん向き合って個別解を追求する意欲・実行力が不足した寺院は、諸行無常の世の中で役割を終えていくことになるでしょうし、逆に社会変化に能動的に対応する寺院の未来は開かれ、現代に適した形で仏教・寺院の魅力を次代に伝えていくことになるでしょう。

全国曹洞宗青年会の活動は皆さまの賛助費に支えられております。
この度もご協力いただき誠に有難うございました。

◆福島県

- 41 石雲寺 様
- 49 大泉寺 様
- 101 成林寺 様
- 110 龍徳寺 様
- 111 普光寺 様
- 121 長泉寺 様
- 167 澄江寺 様
- 175 天澤寺 様
- 226 常隆寺 様
- 231 円通寺 様
- 461 正法寺 様

◆宮城県

- 10 瀧澤寺 様
- 83 向泉寺 様
- 212 祥雲寺 様
- 252 福巖寺 様
- 263 西林寺 様
- 384 大雄寺 様
- 414 虎溪寺 様
- 461 洞松院 様

◆岩手県

- 7 永祥院 様
- 13 長善寺 様
- 17 清水寺 様
- 21 恩流寺 様
- 28 聖福寺 様
- 32 吉祥寺 様
- 81 円城寺 様
- 175 長泉院 様
- 303 千手寺 様

◆青森県

- 20 盛雲院 様
- 100 澄月寺 様
- 113 正洞院 様

◆山形県1

- 81 金勝寺 様
- 745 報恩寺 様

◆山形県2

- 285 泉高院 様
- 316 金鐘寺 様

◆山形県3

- 466 禪龍寺 様
- 623 歡喜寺 様
- 708 光浄寺 様
- 740 長應寺 様

◆秋田県

- 1 鱗勝院 様
- 17 補陀寺 様
- 27 永源寺 様
- 37 福昌寺 様
- 160 雲岩寺 様
- 220 雲巖寺 様
- 260 松庵寺 様
- 261 見性寺 様
- 265 倫勝寺 様
- 302 天昌寺 様
- 306 洞雲寺 様
- 321 鏡得寺 様

◆北海道1

- 96 観音寺 様
- 257 高台寺 様
- 351 曹覚寺 様
- 356 大聖寺 様

◆北海道2

- 181 永祥寺 様
- 299 永福寺 様
- 323 禪祥寺 様

◆北海道3

- 215 法光寺 様
- 224 禪龍寺 様

インターネット
受付分

◆千葉県

- 12 高根寺 様

◆佐賀県

- 130 廣雲寺 様

ボ ラ ン テ ィ ア 基 金 感 謝 録

2020年10月1日～2020年12月31日取扱い分

- 茨城 龍泉院
- 静岡 盤龍寺
- 三重 海蔵寺
- 長野 曹洞宗長野県第一青年会
- 宮城 大雄寺

- 北海道 札幌禪林青年会
- 〃 禅真会
- 〃 北海道第一宗務所第三教区青年会
- 〃 曹洞宗北海道第二宗務所第四教区青年会
- 〃 曹洞宗北海道第二宗務所第六教区
- 〃 第三宗務所第二教区青年会 禅林会

両大本山御用達
梅花流法具販売指定店

法衣・装束・荘厳・神仏具・贈答用記念品

 株式会社 梅金商店

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

〈本 社〉〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号
(大須交差点東北側)
TEL(052)241-0901(代表) FAX(052)241-1904

シワにならない麻のような風合い
スーパールック
しなやかな絹のような風合い
シルキーワン

井筒屋

☎0120-122-894
<https://www.idutsuya.co.jp>

賛助費浄納御芳名簿

2020年10月1日～2020年12月31日取扱い分

◆東京都

180 正覺寺 様
256 妙全院 様
309 天寧寺 様
386 龍昌寺 様
406 全昌院 様

◆神奈川県2

14 傳心寺 様

◆埼玉県1

395 観清寺 様

◆埼玉県2

320 西光寺 様
331 曹源寺 様

◆群馬県

83 常仙寺 様
99 龍傳寺 様
194 善宗寺 様
294 海源寺 様
309 永福寺 様

◆栃木県

57 満福寺 様

◆茨城県

182 龍心寺 様
197 長龍寺 様

◆千葉県

1 總寧寺 様
7 満蔵寺 様
8 重俊院 様
10 流山寺 様
22 廣壽寺 様
29 慶林寺 様

◆山梨県

86 法幢院 様
115 海潮院 様
203 方外院 様
265 宝鏡寺 様
269 西方寺 様
280 円通院 様
281 長生寺 様

◆静岡県1

26 宝珠院 様
50 盤龍寺 様
126 一乗寺 様
127 楞嚴院 様
164 興禪寺 様
464 正泉寺 様
528 盤石寺 様
551 成道寺 様

◆静岡県2

319 源光院 様
325 海藏寺 様
362 福泉寺 様
368 曹洞院 様

◆静岡県3

676 孤雲寺 様
868 龍巢院 様

◆静岡県4

1099 宿蘆寺 様
1140 竹林寺 様

◆愛知県1

7 全香寺 様
101 成福寺 様
209 観音寺 様
252 慈眼寺 様
313 長松寺 様
336 弥勒寺 様
375 春江院 様
625 宝積寺 様
635 永澤寺 様
1119 松月寺 様

◆愛知県2

684 花井寺 様
782 天桂院 様
813 全久院 様
872 傳法寺 様

◆愛知県3

431 報恩寺 様
557 楞嚴寺 様

◆岐阜県

5 悟春院 様
108 玄霜寺 様
162 清楽寺 様

◆三重県1

83 涼泉寺 様
273 禪龍寺 様
284 常安寺 様

◆滋賀県

143 永壽院 様
197 寶光寺 様

◆京都府

46 榮春寺 様
236 善光寺 様
302 法隆寺 様
389 萬福寺 様

◆大阪府

31 正泉寺 様
38 慈願寺 様
93 久親恩寺 様
98 吉祥院 様
107 實相院 様

◆兵庫県1

9 三宝院 様
14 禪昌寺 様
287 向榮寺 様
337 友松寺 様
375 金剛寺 様

◆兵庫県2

173 瑞雲寺 様

◆岡山県

1 円通寺 様
3 長川寺 様
28 洞松寺 様
130 蓮性寺 様
131 濟渡寺 様

◆広島県

13 延命寺 様
22 光禪寺 様
46 双照院 様
133 少林寺 様
158 西福寺 様

◆山口県

125 龍泉寺 様

◆鳥取県

156 福嚴院 様
189 常福寺 様

◆島根県1

304 自徳庵 様

◆島根県2

16 洞光寺 様
63 龍覚寺 様
64 安栖院 様
66 浄心寺 様
70 完全寺 様
123 神宮寺 様
141 本願寺 様
187 養善寺 様

◆愛媛県

146 興雲寺 様

◆福岡県

5 妙徳寺 様
28 桂木寺 様
110 松山寺 様

◆大分県

16 勝光寺 様

◆長崎県1

42 西方寺 様
78 宝泉寺 様

◆佐賀県

108 光明寺 様
194 普恩寺 様
198 宝昌寺 様

◆熊本県1

13 浄国寺 様

◆熊本県2

122 國照寺 様

◆宮崎県

53 帝釈寺 様
54 善栖寺 様

◆長野県1

65 柳原寺 様
86 圓福寺 様
225 興国寺 様
265 蕃松院 様
364 龍昌院 様

◆長野県2

419 宗徳寺 様
491 龍勝寺 様

◆福井県

294 養命院 様

◆石川県

16 松月寺 様
64 永光寺 様

◆富山県

98 足躰寺 様
110 円通寺 様

◆新潟県1

321 種月寺 様
342 光照寺 様
358 円光寺 様
393 曹源寺 様
437 善祥寺 様
453 龍澤寺 様
496 長樂寺 様

◆新潟県3

557 普広寺 様
567 楞嚴寺 様

◆新潟県4

69 永明寺 様
217 諸善寺 様
235 龍門寺 様
296 関泉寺 様
738 不動寺 様



全国曹洞宗青年会 奉讃事業
 今を創ろう 明日を咲かそう
 復興と700年の想いを込めて



令和3年4月3日(土)16時半より

- 映画『典座-TENZO-』上映 会場:大本山總持寺祖院 大祖堂

令和3年4月4日(日)

- 祖院復興報恩フェスタ 会場:大本山總持寺祖院 境内
 精進料理体験 / 関連ブース多数出店
- オンライン大般若法要

※コロナ禍に際し大本山總持寺はじめ実行委員会と協議の上、慎重に準備を進めております。状況に応じて内容が変更される可能性があります。最新情報は上記HPにて発信します。

詳細は
 全国曹洞宗青年会
 公式HP『般若』にて
<http://sousei.gr.jp/>

表紙の話

今号の特集は、物体に向けられる思いや、目に見えない心についてを考える構成となっています。表紙も同じく、「思い」をテーマとしました。